

HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第9号 2007年12月発行

国内での住宅修繕・清掃事業、第1弾を東京・中野区で実施

ハビタット・ジャパンでは今年度より、国内事業の一環として、支援が必要な独居高齢者など社会的な弱者に対する住宅小修繕および清掃支援などのボランティア活動事業「すまいるオペレーション」(Smiles Operation)=仮称=を開始することとしていましたが、まずはそのパイロットプロジェクトとして、事務局が立地する東京都中野区において11月17日、3名のボランティアの参加を得て実施しました。

今回、清掃活動などをおこなったのは、中野区中央1丁目に住むKさん宅。 Kさんは昭和12年生まれの70歳で、 1カ月ほど前に散歩中に転倒して足を負 傷、以来、部屋の掃除や買い物に不自由 な生活を強いられてきました。ハビタットは住宅を建てるだけでなく、修繕や清 掃なども住環境改善の大事な要素だと考 えており、今回の支援となったもので す

ボランティアとして参加してくれたのは、関東キャンパスチャプター(CC)から青山学院大学の冨永和弥君、神田外語大学の新井泰香さん、明治学院大学の倉田あゆ子さんの3名。今回はKさん宅の水周り(台所、トイレ)を中心に、Kさんの要望を受けて清掃をおこない、約2時間後にはかなりきれいな状態になりました。かつては宮大工をしていたというKさんは、ハビタットの活動を知ってたいへん喜んでくれました。

ハビタット・ジャパンでは今後も定期 的にKさんを支援していく計画です。

なお、今回のKさん宅の選定にあたっては、中野区からの委託を受けて地域の 高齢者福祉活動をおこなっている東中野 地域包括支援センターの介護支援専門員



の方のご協力をいただきました。今後も 地域包括支援センターとの連携でボラン ティア活動の輪を広げていく計画ですの で、皆様の積極的な参加をお願いいたし ます。 (担当スタッフ・茂木周二)

ボランティア参加者の感想

神田外語大学3年・新井泰香

今回参加して、このような国内での支援活動の必要性を改めて実感しました。お年寄りの一人暮らしは、毎日の掃除やストーブなど重たいものの移動が困難です。Kさんのお宅の様子から、たとえ住む場所があったとしても、快適に生活できる状態を維持することが、体の弱っているお年寄りにとっていかに大変かが感じられました。

実際に掃除をしてみると、思いのほか 夢中になってしまい、あっという間に時間が経ってしまいました。Kさんも、「そこのスポンジ使ったらいいよ」「ミはこの袋に入れなよ」と私たちを気づかってくれ、最後には涙を流して喜んでくれました。たった2時間近く掃除をしただけで、そんなに喜んでもらえるとは思っていなかったので、「やってよかった」と心から思い、Kさんの「ありがとう」という言葉や笑顔が、とても嬉しかったです。

Kさんは「きれいにしてもらっても、自分で維持できない」ということを気にしていました。確かに、一回きりの支援では意味のないことかもしれません。今回のような支援が、継続的なハビタットの活動のひとつとして、これからも続いていくといいなと思いました。

明治学院大学2年・倉田あゆ子

私はハビタットの活動に参加してから 今まで「家を建てる」という方法で居住 問題を見てきましたが、今回新したことで、新しい視点で り組むことができたように思います。 までの方法だと、日本国内ではあまりま での方法だと、日本国内ではあまること といるとしても実施すること は困難でした。しかし、今回の「独居国内 でも非常に需要が高いように感じました。 今回のKさんのお宅では2時間程の





作業でしたが、来る前に比べると大分き れいになりました。この程度ならば、学 生支部の活動の一環として取り入れれば 大きな成果が出せると思います。

ただ、今回の参加にあたり一つ注意しなければいけないと思ったことがあります。それは、中途半端な気持ちで入ってはいけない、ということ。これは、どの支援を行うときも同じだとは思いますが、今回はとても強く感じました。

高齢社会が進む日本でKさんのようなお宅はたくさんあり、需要はこれからどんどん出てくると思います。今回はその需要を実際に目で見ることができ、またその需要に対し気をつけていかなければいけないことも感じることができました。パイロットプロジェクトとして成功だったと思います。

青山学院大学1年・冨永和弥

自分はこの4月からハビタットの活動 に加わり、GVに行くことなどを通じて 世界中さまざまな場所が抱えている貧困 住居の問題に触れてきました。しかし、 今まで海外への支援は色々行ってきたも のの、日本国内での活動にはあまり関 わったことがありませんでした。そんな 自分にとって、今回のプロジェクトは新 鮮なものであったと感じています。また 国内での活動という点以外にも、家を 「建てる」ではなく、もともとある家を 「清掃、補修する」という新しい形での 関わり方を通して、「家がある人でも問 題がないわけではない。こういった支援 も必要なのだな」と、別の視点から見た 住居の問題について考えさせられまし た。今回は中野区でのパイロットプロ ジェクトということでしたが、ぜひとも 継続して支援を続け、ゆくゆくは支援対 象をもっと増やしていかれたらな、と思 います。今回の体験で得た、国外だけで なく国内の問題にも目を向けることの大 切さを忘れず今後の活動に活かしていき たいです。



近況報告 HFHJ アップデート

Japan Update

東ヨーロッパにおける住居支援

ハビタットは現在、世界を5つのエリアに分けそれぞれの活動を行っています。 日本は「Asia & Pacific (AP)」エリアに所属しており、これまでタイ、フィリピ ン、バングラデシュをはじめとする多くのAPエリア国と共に活動を行い住居支援 における実績を上げてきました。一方、今回ご紹介する東ヨーロッパでの活動は 「Europe & Central Asia (ECA)」オフィスの統括によって行われています。ECA はハビタットの中でも比較的新しいエリアオフィスで、近年、エリア各国での活動 が積極的に行われるようになってきました。結果、多くの支援を必要とする現実が 浮き彫りになってきており、このECAのニーズに応えるため、日本からも今年、 ルーマニア、キルギスタンへのGVチーム派遣を開始しました。今回、私はそのE CAエリアで活発な住居支援に取り組んでいるポーランドとマケドニアを訪問して きました。2008年夏を目標にこの2カ国にGVチームを派遣したいと考えており、 その活動の様子を以下ご紹介したいと思います。

(GVプログラムマネージャー・山崎顕太郎)



東ヨ―ロッパ革命後の深刻な住宅事情

ポーランドは2004年5月に欧州連合 (EU) 加盟を果たしました。しかし、 東側諸国の旧メンバー国として共産圏の 経済、社会政治によって残された負の遺 産への対応を現在も迫られています。数 多くの改革実行にもかかわらず、適正な 住居環境を手に入れることの出来ないと いう現実問題に低所得者層の多くが直面 しており、これら低所得家族はかつてソ ビエト時代のブロック作りのアパートに 住まわざるを得ないという現実の影で社 会から忘れ去られているのが深刻な住宅 事情を物語っています。ハビタット・ ポーランドの事務局長Piotrさんは「現在 のポーランドには政府による住宅政策が ない」と住宅支援の不足を訴えていまし

ある住宅政策研究所の調査では、ポー ランドの4軒に1軒の割合で居住禁止に するべきアパートが存在しているという 報告があり、これは150万軒以上の新たな 住宅が必要となる計算になります。加え て、現存する住居の約8軒に1軒は台所





を持たず、10軒に1軒はアパート全体で ひとつのトイレの共同使用や室内設備を 全く持たない現状にあるという報告も ポーランドの住宅問題を浮き彫りにして います。

このように大変深刻な住居環境に悩む 低所得家族はその過酷な状況からを抜け 出す手段を持たず、ただただ彼らの健康 と安全を脅かす不十分な住宅環境の中で 暮らさなければならない現実を、今回、 ハビタット・ポーランドの現地活動を通 じて感じました。

ハビタット・ポーランドの活動状況

ハビタットは1992年グリウィツェで活 動を開始。現在は首都ワルシャワ、そし てグダニスクでも活動を展開していまし す。都市圏の影響による高い地価と建築 費用のため、一軒家ではなく集合住宅の 建設を中心に行っています。この集合住 宅はポーランドの厳しい冬にも持ちこた えられるように設計され、一方で、春夏 の太陽光や新鮮な外気を十分取り込むこ とが出来るよう設計に配慮がされていま

屋根は木造、土台はコンクリート、壁 は軽量で目の粗いブロックを使用してお



り、何よりの特徴はこのブロックは保温 効果があることです。他にも様々なサイ ズ(4~12家族用といった)の住居建築 により対応を図っています。4人家族用 住宅の平均サイズは約52平方メートル。 入居家族は20年間無利子住宅ローン(約 140ドル/月)で完済を目指しています。 ちなみにこの金額設定は銀行ローンに比 べかなりの低額に抑えられています。ま た、首都ワルシャワを中心に民間企業な どの現地パートナーと共同支援にも力を 入れており、これまで第二次大戦後に建 てられたブロックアパート等の改築・修 繕活動を行ってきました。

2008年夏、アジア初、日本からのGV チームと共にポーランドの抱える住宅問 題解決に向けた活動が出来ることをハビ タット・ポーランドスタッフ一同心待ちに していました。



<基本データ>

族(写真右)

人口:約3,860万人(2004年)

面積:約32.3万平方キロ

(日本から九州、四国を引いた程度)

GDP:約3,030億ドル(2005年)

GDP/人:約7,946ドル(2005年)

政体:共和制

民族:人口の約98%がポーランド人

<ハビタット・ポーランド>

支援家族(FY07): 29

創設以来の支援家族: 123

新築住居費用: \$31,400

改築・修繕: \$2,000-7,800

アフィリエート: Warsaw, Gliwice, Gdansk

HFHJ Newsletter





HFHJ アップデート

Japan Update

マケドニア共和国



民主化政策によってもたらされた住居問題

旧ユーゴスラビアの南東部、ギリシャ の北部に位置する小国マケドニアは1991 年に旧ユーゴスラビアからの独立以来、 政治的、経済的変化に苦しんできまし た。旧ユーゴスラビアから唯一、平和的 な解決により独立した国家であるにもか かわらず、中央集権制から市場経済への 転換は大変な困難を極め、このもろい経 済そして政治的安定は短く、2001年には マケドニア政府軍とアルバニア系武装勢 力による武力衝突を招きました。この不 安定な状況は、36%とヨーロッパで最も 高い失業率をもたらし(2006年実績)、 世界で「貧困」と定義される状況にいる 人々はマケドニア全体で30%にも上って います (2005年実績)

この国情は「ロマ (Roma)*」と呼ばれる社会から取り残されたグループを生んできました。さらに、近年の貧困増加により安価に建てられた家々は荒廃が進んでいますが、多くの人々は新居を建てる費用をまかなう収入がない深刻な住宅問題をも生んでいます。

*ロマ (Roma) は一般社会から迫害され 強要された居住地での劣悪な環境におか れている。





1991年の独立後、マケドニアは民主 化・市場経済化の道を進み始めました が、政府補助金への大きな依存からの変 更を余儀なくされた結果、これまでの柔 軟性のない都市計画と事業の著しい悪化 を招き、新たな住宅建築件数は下がり、 住宅コストは多くの家族が購入できない 状況まで高騰するという結果を招いてし まいました。現地スタッフ、Miteさんは 「厳しい家計状況により、一般の家族は 新居を持つことが非常に難しく、その結 果として彼らの多くは親の家に住みつ き、数世代がひとつの家に住む状況はマ ケドニアではよくある」と話してくれま した。マケドニアの建造物の平均年数は 約40年。しかし、そのほとんどは直ちに 改築・修繕が必要であり、こうした状況 を受け、ハビタット・マケドニアは活動 を開始することとなりました。

ハビタット・マケドニアの活動状況

ハビタット・マケドニアは2004年6月 正式に活動を開始。2005年に低所得者層 向けの改築・修繕ローンを目的としたプログラムをマイクロファイナンス専門性 に長けている支援団体、Opportunity International (0I) とパートナーシップ を結ぶことによってスタートさせました。

このローンプログラムは窓、ドア、屋根の修繕、壁の補強、そして下水や暖房設備の改善、といった生活環境を改善するための手段として利用されており、マ

ケドニア全土で利用が可能なシステムで、利用家族は約5年間のローン返済によって完済する計画を立てます。ハビタットが1ドルの提供につき0Iが2ドルを提供するという仕組みで本プログラムは支えられています。さらに、ローンのためにハビタット・マケドニアが提供する資金100%の返済が0Iによって保証されており、この保証が現地での活動の安定そして発展につながっています。

スタートしてまだ3年足らずですが、これまで350名を超える人々に利用されており、現在、この改築・修繕ローンプログラムの経験を活かし、ハビタット・マケドニア初の住宅建築事業を開始しました。2008年より53軒のハビタットハウスの建設を予定しており、数多くのGVチームの支援に期待を寄せています。



<基本データ>

人口:202万人

面積:25,713平方キロメートル

(九州の約3分の2)

GDP: 45億ドル (2005年)

GDP/人:2,219ドル(2005年)

政体:議会共和制

民族:マケドニア人、アルバニア人等

<ハビタット・マケドニア>

支援家族(FY07): 54

創設以来の支援家族: 86

新築住居費用: \$27,900

改築・修繕ローン: \$1,500-5,000

アフィリエート: Skopje

中学生2名がハビタット事務所で 訪問学習

埼玉県鳩ヶ谷市立里中学校3年の生徒2名がこのほど、ハビタット・ジャパンの事務所を訪れ、総合的学習の教科時間を活用し「世界と私たち」というテーマの勉強に取り組みました。この生徒1首での地域に取り組みました。この生徒1首では国への援助活動」について関心を持つようになり、より詳しく知りたいということでインターネットで調べてハビタッ

トを訪ねてきてくれたものです。

事務局では、世界の貧困の現状や、そこから抜け出そうと努力している人々、そしてその人々を支援するハビタットの活動などについて、資料や映像を交えて説明しました。ハビタットの活動が多くのボランティアや資金提供者によって支えられていること、人々が支えあっていることを理解してもらえたと考えています。

ふたりは後日いただいた礼状の中で 「今回学んだことをさらに深めて勉強を すすめていきたい」と述べていました。 これからも勉強、頑張ってください。ハ ビタットも精一杯応援します。



近況報告 HFHJ アップラ Japan Up

フィリピンGVリポート: 関西大学

にある、FTIというサイトで活動を行いま した。ワークサイトは、周囲をフェンス で囲われており、その周りに多くの人々 が違法で住んでいました。私たちは、そ の方たちのための家を建築するお手伝い を行いました。

家は、3階建てのアパートで、一軒は もう既に完成しており、その家を見たと き3階建てだったので大変驚きました。 作業は、2階部分を建築中のアパートで 携わりました。アパートは、ブロックと セメントで造られており、その素となる 砂をこす作業、その砂からブロックやセ メントを作る作業、作ったブロック・セ メントをリレーで運び、大工さんに渡す 作業、針金を作る作業など、チームに分 かれ作業を行いました。

また、一軒スチールフレームの家があ り、その家のペンキを塗る作業も行いま した。ここでは、大工さんだけで20名

私たちは、マニラ首都圏のタギッグ市 | から30名ほどおり、また地元の大学生 も授業の一環として参加しており、非常 に賑やかなサイトでした。ただ作業をす るだけでなく、作業を通して大工さんや 大学生の方たちと深く交流ができたと思 います。とても暑く、作業の内容も体力 的にはきついものが多かったのですが、 チームみんながワークをすごく楽しみ、 好きになり、スコールで作業できないと きは、非常に残念がっていました。

> R&Rで、私たちは、孤児院訪問、BASECO (マニラ市内にあるスラム地区) 訪問、 ケソン市のゴミ山訪問、小学校訪問、市 長訪問を行いました。孤児院・小学校訪 問では、子どもたちと歌やダンスなどで 交流しました。BASECO訪問は、過去、関

大チームが3度この地区で ワークをしており、とても 思い出深い場所です。

ここでは、この地区の青 年チームの人たちとともに 清掃活動を 行い、ハビ タットハウ スに住んで いる方々に 質問などを しました。 ケソン市の



パヤタスにあるゴミ山に赴き、ここで活 動しているるSALT (NGO団体) のスタ ディーツアーに参加し、ここの現状を目 の当たりにしました。

宿泊施設のホテルは非常によかったで す。人数が多いため、ホテルの部屋で ミーティングができなかったのですが、 ホテルの広間を貸していただくことがで き、非常に助かりました。

(Kandai Habitat チームリーダー・

谷内 美穂)

5	所属	Kandai Habitat(関西大学)
,	訪問先	フィリピン/タギッグ市
	サイト情報	Taguig FTI Project Site
	活動日程	12日間:2007年9月3日~14日
	メンバー	計:29名(大学男性:8、大学女性21)

JCWP2007 ロサンゼルスで開催

今年のジミー・カーター・ワークプロ ジェクト (JCWP) は10月28日から11月2日 にかけて米国カリフォルニア州ロサンゼ ルスで行われました。ロサンゼルス市内 から市外地に点在するハビタットの建築

サイトに世 界中からた くさんのボ ランティア を集め、30 軒の建築と その他多く のリフォー ムを行いま した。



寄付・助成金リスト (2007/10/1~2007/11/30) みなさまのご支援は、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために 大切に使わせていただきます。ありがとうございました。(敬称略・順不同・単位:円) <寄付金>

日付	寄付者名	支援国指定	金額
10月5日	立命館大学	新潟県中越沖	46, 429
10月9日	内田 三智子		4, 020
10月9日	グローバルフェスタ		18, 184
10月11日	はとライブ収益金	A manufacture of the second	82, 569
10月15日	内藤純		3, 000
10月15日	渡辺 孝		10, 000
10月23日	大江山石材侑)		6, 395
10月26日	青木 克彦		5, 188
11月5日	神戸ユニオン教会		270, 000

<助成金>

11月30日 ジャパン・プラットフォーム バングラデシュ 28, 992, 625



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは 地域のニーズに基づいたプログラムや個人参加を通して世界中 の貧困住宅の撲滅を目指しています。2006年は100以上の 国々で、100万人近くのボランティアが参加しました。私たち のエキサイティングな活動に関するさらなる情報をご希望の方 はぜひ下記あてご連絡ください!

Habitat for Humanity Japan

T164-0003

東京都中野区東中野1-45-5 Tel: 03-5330-5571 日ノ出ビルB101 発行人:安藤 勇

編集人:茂木 周二 同:伊藤礼、内田三智子

Fax: 03-5330-5572 URL: www.HabitatJP.org Mail: info@HabitatJP.org

